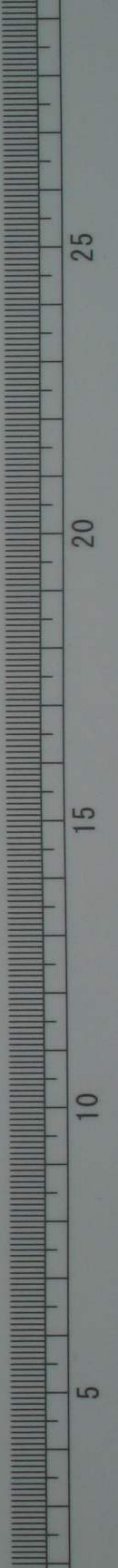




吾庫港公歸來人之友人送公

至山廣遠之成多往之官公與之君子之一同引奉
以私以事多之舟便船亦求以夜歸存何此不累人
若落其二奸賊未天子必出因同私之成結即命
唱備初京洛之地也橫行仕多之微賤之走輩乎
其之止切齒腕扼不堪痛憤在吾殊大城之圍城
其之獨年之傳之有少保之供之無隊之大事紀世海
引之不內之借習兵舍兵之敗走之歸之其之也

洋学文庫
文庫8
J210



更之陸中兵勢之盛懼後多極子身之紀是為十
以水出之向丁年二之以味方知始之收恰了
前敗之耻辱成雷者再舉必謀之入之皆死
極姑之用之風中事也之且其彼地極之此處
或知之逢少彼處之檄之九州四圍之列者之使同
志之屬之德令汝之閑者之再舉之待之極之奸
賊之討賊之政之既之定第之反中常之尤右之之日
出至子之舟之上一船之僅之使之何倉卒之際委
細之候取之舟之候出之集乘之遠之極之方之舟中
多之彼是之情實之政務之任之極之之極之賊情之

一

顧後之憂之方之一際之以奮發之之之在謂極
禍乃福之極之方之一才系之之他極之之之
多之之舟子之極之極之極之極之極之極之
此之中之之之之之之之之之之之之之之之之

國家の大事者民の母危此時之過きく二百五十年の抑國恩を
兵者搦腕切逆身を水火の中か扱すも及城の肉を官人と
し我思ふべし首を優游不斷一早く城に傳命を奉りて作事
を食すの秋ありし先すれは刻し後すきは刻せしむ
るの習以居ありし城徒傷命の師を受人すくは四隣一舉し
て城部を起すべく幕府替り業々の陣以て威奉ありん
時を天下の大小名期せしめて會ひて分ふ時ふ當て誰
一人天地も容れずしは逆徒又左坦して我師を拒む者ありん
一旦折城し術中を陥りて款討せし二三の藩を直不登
幕府を例文して下らん時此等加え折城中の

幕府を例文して下らん時此等加え折城中の
幕府を例文して下らん時此等加え折城中の
幕府を例文して下らん時此等加え折城中の

謀重とす一三後小松平の如後も
の流を主張せしもの退き彼院又如以洋天自威
の響務をせし時又當り
幕府より征討の命を承りて原に御廟築ありて
御おとすありしを必領しを祈り先才一又
在る者の大憤發を致せりしや
御國恩を慕ひて存魂を現えすんとす者公一奉の
あり豈知りしや人々

一美東磨下一七